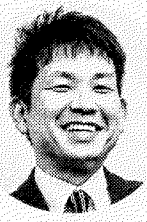


二〇一五年六月十四日・Larship of Teaching and Learning (教育・学習の学識) をアジアという文脈において、どのよう展開して「エビデンス」のテーマは、S.O.T.Lは大学教員による教育実践を研究対象として論文文化、公開することによって、教育の価値を研究同様に位置づけることを提唱するものだが、これもエビデンスに基づくFDの一つとして位置づけることができる。

FDの実践は欧州圏、北米圏の国々では一九七〇年代以降、日本においては一九九〇年代後半以降に各大学において展開してきたが、最近、単に実践の実事だけではなく、その成果が求められようになっているという報告した。

また、同年十月二十三日・二十四日には、国立シンガポール大学の教育学習開発センター主催で、アジアにおけるS.O.T.L会議が開催され、シンガポール、香港、中国、日本から二〇名の代表者が集まった。この会議では、ホイヤールの提唱したScholarship of Teaching and Learning (教育・学習の学識) をアジアという文脈において、どのよう展開して「エビデンス」のテーマは、S.O.T.Lは大学教員による教育実践を研究対象として論文文化、公開することによって、教育の価値を研究同様に位置づけることを提唱するものだが、これもエビデンスに基づくFDの一つとして位置づけることができる。



大阪大学准教授
日本高等教育開発協会副会長
佐藤浩章

今、求められる「エビデンスに基づくFD」

中室は、教育経済学の立場から、教育現場における意思決定場面での「エビデンス」の脆弱性を主張している。中室が著書の中で引用しているのが、医療における「エビデンスの捉え方である。中室は言う。「経済学者は『子どもの目が見えなくなるとか、学校が活気にあふれている』などといった、人によって見方が変わってしまう主観」

この誰かの成功体験や2015(26)。ところが、二〇〇〇年頃からE BMの重要性が叫ばれるようになり、日本医療機関が運営する医療情報サービスMind sにおいて、二〇〇七年に「診療ガイドライン作成の手引き」が作成された。これは、研究の「設計」方法に基づいてエビデンスを評価するものであり、臨床研究のエビデンスレベルは八つに分類

「患者データ」に「6: 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見」となる。従来一般的であった伝統的な専門家の意見は、最もエビデンスの低いレベルに位置づけられたのである。そして、この中で高いレベルに位置づけられているのが、「ランダム化比較試験」である。ランダムに分けられた治療群と対照群を設定し、前者のみ

「教育的効果」がスタンダードになっている。最も高いレベルから順に並べると、「1: システムティック」である。また、自治体や政府の報告書の中にやたらと登場するような、『満足しましたか?』子ども自身に聞いたアンケート調査を集計する『エビデンス』と呼ぶこともありません。(同上: 19-20)。

医療の世界では、一九九〇年代後半以降、「エビデンスに基づく医療」という言葉が盛んに使われるようになった。これは、研究の「設計」方法に基づいてエビデンスを評価するものであり、臨床研究のエビデンスレベルは八つに分類

「3: 非ランダム化比較試験」、「4a: 分析疫学的研究(コーホート研究)」、「4b: 分析疫学的研究(症例対照研究)」、「5: 記述研究(症例報告やケース・シリーズ)」である。二〇一〇年代に入り、医療的介入を行い、その成果を見たいというものである。二〇一〇年代に入り、このように研究の「設計」方法のみに準拠してレベルを測定することに問題はあるとされ、現在は「設計」よりも「患者にとつて重大なアウトカム」についてエビデンスの質を判定すべきである。

「エビデンス」を呼ぶこともありません。(同上: 19-20)。

「5: 記述研究(症例報告やケース・シリーズ)」である。二〇一〇年代に入り、医療的介入を行い、その成果を見たいというものである。二〇一〇年代に入り、このように研究の「設計」方法のみに準拠してレベルを測定することに問題はあるとされ、現在は「設計」よりも「患者にとつて重大なアウトカム」についてエビデンスの質を判定すべきである。

「ランダム化比較試験」は、ランダムに分けられた治療群と対照群を設定し、前者のみが観察される。ランダム化比較試験は、ランダムに分けられた治療群と対照群を設定し、前者のみが観察される。ランダム化比較試験は、ランダムに分けられた治療群と対照群を設定し、前者のみが観察される。

佐藤浩章(2013)「大学教員の総合的な能力開発」愛媛大学における「エビデンスに基づくFD」の試み」『留学交流』(ウェブマガジン) 27
佐藤浩章(2015)「大学教員の質保証を担う大学」早田幸政編『大学の質保証とは何か』(エイテル出版)
中室牧子(2015)『学力の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン
豊島義博・南郷里奈・蓮池聡(2015)『学びなおしEBMGRADEアプローチ時代の臨床論文の読みかた』クインテッセンス出版株式会社
Minds診療ガイドライン選定部会(2007)『Minds診療ガイドライン作成の手引き2007』医学書院